

令和6年3月14日

白河市教育委員会
教育長 芳賀 祐司 様

白河市学校規模適正化検討委員会
委員長 植田 啓嗣

提 言 書

白河市教育委員会教育長より令和5年8月25日付け5教学第503号で依頼された「白河市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」について、方針策定に向けた基準案を取りまとめましたので提言します。

【はじめに】

本市の各小中学校では、児童生徒の健やかな成長のため児童生徒や学校、地域の実態を十分に踏まえ教育実践しているところであるが、想定をはるかに超える近年の少子化に伴い小規模化が進んでいる。

一方で、社会ではグローバル化やＩＣＴ化などの急速な進展によって大きな変革期を迎えており、今後一人ひとりの個性や感性が重視される傾向はますます大きくなるとともに、そのライフスタイルは更なる多様化が見込まれている。このような多様性を重視するこれからの社会を生きる子どもたちには、多くの友達や教職員との交流を通じて互いに切磋琢磨するとともに、多様な意見や考え方に触れ、その中で主体性や自ら課題を見つけ探究する力がこれまで以上に求められている。

今後、小規模化がさらに進むと予測される中、学校の一定の集団規模の確保は教育環境の整備の観点から重要であり、これらに関する本市の対応方針を定めるため学校の適正な規模や配置について検討が必要となっている。

【学校の適正な規模や配置に関する検討にあたっての考え方】

適正な規模については、法律上や制度上の仕組みでは教育活動の多くの場面が原則として学級を単位として行われていることや、教員数も学級数を基本とした配置基準により決まることなど、学級数が教育環境に与える影響は非常に大きく、本委員会では学級数を学校規模の基準とした。また、学びやすさや集団活動による多様な人間関係づくりの観点から、1学級あたりの児童生徒数についても検討することとした。

次に、適正な配置に関しては、通学距離や通学時間について国の基準を踏まえつつ、本市学校の既存の通学環境と照らし合わせ妥当性について考えることとした。なお、通学距離と通学時間は密接に関連していること、一般的には「徒歩何分」など「時間」でとらえる方が理解しやすいと考えられることから、本委員会では「通学時間」として検討することとした。

次に、小規模化が進む学校への対応方針に関しては、これまでは学校の保護者や地域住民からの要望に基づき学校のあり方の検討が行われてきたが、今後は、併せて児童生徒数の将来推移予測を行える教育委員会が主体となり学校のあり方を検討する場を設置することが望ましいと考え、その基準について検討することとした。

【検討結果】

1 適正規模について

◆望ましい学校規模

○小学校：各学年 2 学級以上

○中学校：各学年 3 学級以上

～望ましい学級規模についての考え方～

子どもの成長過程では、ある程度の学校規模の中で、切磋琢磨したり多様な考えに触れたりしながらコミュニケーション能力を育む環境が必要である。また、人間関係の構築の仕方や様々な考え方を学ぶためにはクラス替えを行える環境も必要である。さらに、効率的な学校の運営及び指導体制の面からも、学校の小規模化が進むことで一人の教員が担う校務分掌が増大することや、学校・学年組織としての教員間の学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力が行いにくくなることから、各学年で複数学級となるような学校規模が必要である。

中学校では同じ教科を担当する教員を複数配置できることで教科指導体制が充実するとともに、生徒の希望する部活動の設置を可能にしたり、学級対抗の行事を充実したりすることで学校生活の活性化が図られることなどから、小学校より大きな規模が必要と考え、各学年 3 学級以上とした。

なお、各小中学校では今後、小規模化が進むことから、望ましい学級数の上限については定めないこととした。

参考までに、国が定めた学校規模の標準では、小中学校ともおおむね 12～18 学級までとなっている。

アンケートの結果では、保護者・教職員ともに、小学校では各学年 2 学級、中学校では各学年 3 学級が望ましいと回答している割合が最も多かった。

但し、表郷地域と大信地域では小中学校が各 1 校、東地域では中学校が 1 校と、学校の小規模化が進めば一定規模の確保が困難な場合もあり、それぞれの地域の実情に応じた判断が必要であると考えます。

◆望ましい 1 学級の人数

○小学校：1 学級 20 人程度

○中学校：1 学級 20 人程度

～望ましい 1 学級の人数についての考え方～

学級編制は国や県の基準に従って行われるが、学校の規模適正化を図るうえでの望

ましい1学級の児童生徒数について、規模の異なる学校の視察を行い検討した。

具体的な観点として、子どもたちへきめ細かな指導ができること、子どもたちが授業への参加意識や充実感を得られること、授業での発言等を通して教員や子ども同士のコミュニケーションを図る機会が多く確保されること、さらには、教室の広さや教員の指導のしやすさ、効果的なグループ学習などの面から望ましい1学級の人数を考えた。

アンケートの結果では小学校・中学校とも、最も多くが21～25人が望ましいと回答しており、本委員会としては、特に、教員の目が届きやすく、よりきめ細かな指導が期待できることを重要と考え、望ましい1学級の人数を20人程度とした。

参考までに、県の学級編制の基準では、小学校1、2年生及び中学校1年生は1学級30人、それ以外の学年は30人程度で編制することとなっている。

2 適正配置について

◆望ましい通学時間の範囲

- 小学校の徒歩通学：おおむね30分以内
- 中学校の自転車通学：おおむね30分以内
- 小中学校ともバス通学：おおむね30分以内

◆通学距離や通学時間の上限

- 国の基準に準じる
 - ・小学校：おおむね4km以内（おおむね1時間以内）
 - ・中学校：おおむね6km以内（おおむね1時間以内）

～通学時間についての考え方～

通学距離や通学時間は国から基準が示されており、地域間や学校間の不公平感を生じさせないためにも原則として国の基準に準じることが望ましい。ただし、通学環境の違いや、小学校においては学年による体力差が大きいことから、一律に国の基準を当てはめることは困難であり、児童生徒の実態や地域の実情を踏まえた適切な基準を設定することが望ましい。

また、学校統合となった場合でも、統合の進め方はそれぞれ条件が異なることが予想されるため、これまでの統合事例におけるバス通学の条件と不公平感を生じさせないことや、通学環境などの状況も考慮して、それぞれの協議において決定するよう配慮することが重要である。望ましい通学時間については、通学下における気象条件や交通事情、現在バス通学を行っている地域の実情なども考慮しおおむね30分以内とした。

なお、アンケートの結果では小学校の徒歩通学では68.1%、中学校の自転車通学で

は 63.2%、小学校のバス通学では 56.4%、中学校のバス通学では 66.2%が 30 分までと回答している。

3 小規模化が進む学校への対応方針について

◆小学校でのあり方の検討を始める基準

○複式学級の発生が予測された場合

◆中学校でのあり方の検討を始める基準

○全学年で単学級となることが予測された場合

～小規模化が進む学校への対応方針の考え方～

子どもたちに良好な教育環境を提供するためには、小規模校の“良さ”を認識しながらも、一定の集団規模が望ましいという考えに至り、小規模化が進む学校の対応方針を検討した。各学校には、それぞれ歴史と伝統があり、地域に根差した教育が実践されているという認識のもと、学校のあり方については、学校を有する地域全体で検討することが望ましいと考え、検討を始める場合の基準を設定することとした。

小学校では、より地域と密着した運営が望まれるが、基準の分かりやすさや複式学級に対する保護者の関心度の高さ、さらに教員の配置定数への影響の大きさなどから「複式学級の発生が予測された場合」を基準とした。

中学校では、より社会性やコミュニケーション能力、多様な考え方を身に付けられるような環境が大切である。また、部活動や合唱などの団体活動への参加には、一定の集団規模の確保が必要であり、これらを踏まえつつ基準を考えた。さらに、アンケート調査では、望ましい学級数について 99.5%が 1 学年 2 学級以上を望んでおり、学年の単学級化は好ましくないと考えられることから「全学年で単学級となることが予測された場合」を基準とした。

小学校・中学校双方とも、これらの状況の発生が予測された場合には、その学校区の保護者や住民と学校のあり方を検討する場を教育委員会が主体となり設置することが望ましいと考える。

4 適正化に向けた今後の取り組み方や進め方について

学校の規模や配置の適正化については、何よりも市民の理解を得ることが大切である。適正化に向けた具体案を検討し決定する過程においては、市民の意向を踏まえ、市民に説明をしなければならない。とりわけ、通学区域の変更や学校統合の対象となる地域の住民に対しては、より丁寧な合意形成が求められる。

具体的には、保護者や地域の住民に対し次に示す事項を踏まえつつ適正化に向け

た検討を進めることが重要である。

- ①今後の子どもの減少見込みなどを示しつつ、学校の実情をよく説明し、小規模校が子どもたちの教育にとって適切な環境なのかどうか議論する場を設定すること
- ②学校のあり方を検討し、統合を計画する場合には、現状における学校規模により、機械的に統合を計画することのないよう留意すること
- ③通学の条件整備や地域とのつながりの確保を含め、統合後の学校をどのような学校としていくのかななどを十分に協議し学校運営に反映すること
- ④学校のあり方を検討し、規模の適正化を図れない場合には、小規模校のメリットを生かした指導の充実や特色あるカリキュラムの編成等を検討し、より魅力ある学校づくりに努めること

【資料編】

- (1) 検討依頼書
- (2) 白河市学校規模適正化検討委員会設置要綱
- (3) 委員名簿
- (4) 委員会の開催状況
- (5) 児童生徒数の推移
- (6) アンケート集計結果
- (7) アンケート調査用紙（小学校保護者用、中学校保護者用）

資 料 編

(1) 検討依頼書	1
(2) 白河市学校規模適正化検討委員会設置要綱	2
(3) 委員名簿	4
(4) 委員会の開催状況	5
(5) 児童生徒数の推移	6
(6) アンケート集計結果	14
(7) アンケート調査用紙（小学校保護者用、中学校保護者用）	30

(1) 検討依頼書

5 教学 第503号
令和5年8月25日

白河市学校規模適正化
検討委員会 委員長 様

白河市教育委員会
教育長 芳賀 祐司

白河市小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針の内容検討に
ついて（依頼）

全国の児童生徒数は、平成初期を境に減少傾向が続いており、本市においては近年、小学校では複式学級の発生、中学校では学年の単学級化が見られる状況です。このような中、特に児童の減少が進む大信地域の3つの小学校が令和4年度に大信小学校として統合され、さらに令和6年度には五箇中学校が白河中央中学校へ統合されます。今後、ますます本市の児童生徒数は減少し、それに伴い更なる学校の小規模化が進んでいくことが見込まれています。

義務教育段階の学校は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育をより充実して行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられています。学校の小規模化が今後も続いていく中で、適正な学校規模や学校配置の検討に関しては、早急に取り組むべき課題の一つとなっています。

一方で、これまで行われてきた学校の統合に関する協議では、学校の小規模化が進む状況により統合を望む意見がある反面、学校がなくなる地域の衰退を危惧するなど統合には否定的な意見も見られました。学校は、子どもたちが日々学び成長する場所であると同時に、地域にとっては防災の拠点であり、また、地域コミュニティの中心的役割も併せ持っています。学校に期待されている役割は様々であり、どのような視点から今後のあり方を考えていくのかによって結論が違ってくことも考えられ、基本方針の検討にあたっては学校関係者や保護者、地域住民が共通理解を図りつつ進めていく必要があります。

今後、更に少子化が進むものと予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点を踏まえ、将来にわたって安定した学校運営が可能となるよう、白河市小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針について検討し、意見を取りまとめて提言くださるよう依頼します。

(2) 白河市学校規模適正化検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 白河市立小学校及び中学校の適正規模や適正配置について調査・検討を行い、将来にわたり持続可能な教育環境の整備を図るため、白河市学校規模適正化検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項の調査・検討を行い、白河市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に提言する。

- (1) 白河市立小学校及び中学校の適正規模や適正配置に関すること。
- (2) 前号に定めるもののほか、教育長が必要と認める事項

(組織)

第3条 検討委員会は、15人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱する。

- (1) 地域代表者
- (2) 保護者代表者
- (3) 学校代表者
- (4) 学識経験者
- (5) その他教育長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から1年間とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長それぞれ1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、検討委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長及び副委員長が選出されていないときは、教育長が招集する。

2 検討委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 検討委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じ検討委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見等を聴くことができる。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、学校教育課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については委員長が検討委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は令和5年6月27日から施行する。

(3) 委員名簿

白河市学校規模適正化検討委員会委員名簿

No.	該当号	推 薦 団 体	氏 名
1	1 号	白河地域活性化協議会	矢 内 文 一
2		表郷地域活性化協議会	三 好 祥 夫
3		大信地域活性化協議会	川 堀 正 幸
4		東地域活性化協議会	野 崎 重 人
5	2 号	白河市 P T A 連絡協議会 (白河二中 P T A 会長)	牧 田 純 一
6		白河市 P T A 連絡協議会 (白河二小 P T A 会長)	黒 須 誠
7		表郷地区 P T A 連絡協議会 (表郷中 P T A 会長)	河 野 直 樹
8		大信地区 P T A 連絡協議会 (大信小 P T A 会長)	君 島 圭 太
9		東地区 P T A 連絡協議会 (小野田小 P T A 副会長)	金 澤 英 紀
10	3 号	西白河小中学校長連合協議会 (東北中学校長)	渡 邊 泰 昌
11		西白河小中学校長連合協議会 (白河第四小学校長)	舟 木 裕 子
12		西白河小中学校長連合協議会 (みさか小学校長)	小 川 洋 太 郎
13	4 号	福島大学 人間発達文化学類 准教授	植 田 啓 嗣
14	5 号	白河商工会議所 青年部 みらい交流委員長	鈴 木 光 顕
15		公益社団法人 白河青年会議所 副理事長	片 桐 伸 太 郎

(4) 委員会の開催状況

白河市学校規模適正化検討委員会は令和5年8月に設置され、適正規模・適正配置に関して以下のとおり検討を重ね、基本方針について提言した。

開催回	開催日時	議事、検討の内容
第1回	令和5年 8月25日 午後7時から	学校規模適正化検討委員会設置の趣旨 学校の現状について 学校の適正規模・適正配置に関する基本方針の考え方 適正化に向けた今後の取り組み方や進め方
第2回	9月28日 午後7時から	基本方針の考え方について アンケート調査について 学校視察について 適正化に向けた今後の取り組み方や進め方について
学校 視察	11月7日 午前9時から	視察先①：みさか小学校 視察先②：小田川小学校
第3回	11月21日 午後7時から	アンケート調査の集計結果について 学校の適正な規模や配置等の検討について
第4回	令和6年 1月18日 午後7時から	提言書（案）の検討について
第5回	2月15日 午後7時から	提言書（案）の最終確認について
	3月14日	「白河市立小中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針についての提言書」を教育長に提出

(5)児童生徒数の推移

令和5年5月1日現在

学校名	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
白河第一小学校	270	280	289	283	286	281	273
白河第二小学校	518	493	478	430	418	381	358
白河第三小学校	485	473	460	434	403	399	365
白河第四小学校	184	183	185	177	182	174	176
白河第五小学校	192	182	187	176	163	148	129
小田川小学校	60	58	51	44	46	36	40
五箇小学校	56	50	54	49	47	39	36
関辺小学校	111	100	88	81	75	72	66
みさか小学校	333	324	320	316	320	318	305
表郷小学校	295	278	271	258	232	212	186
小野田小学校	61	57	54	48	42	34	35
釜子小学校	142	138	145	131	127	120	112
大信小学校	149	133	137	129	123	115	103
小学校児童数	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
	2,856	2,749	2,719	2,556	2,464	2,329	2,184

学校名	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
白河中央中学校	440	438	419	413	410	392	389
白河第二中学校	453	450	435	421	379	385	353
東北中学校	123	126	135	141	128	130	123
白河南中学校	129	147	160	156	163	178	174
五箇中学校	17	0	0	0	0	0	0
表郷中学校	151	163	143	144	137	150	152
東中学校	124	125	113	113	103	109	94
大信中学校	108	108	96	83	68	69	68
中学校生徒数	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
	1,545	1,557	1,501	1,471	1,388	1,413	1,353

	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
小学校児童数	2,856	2,749	2,719	2,556	2,464	2,329	2,184
中学校生徒数	1,545	1,557	1,501	1,471	1,388	1,413	1,353

小学校児童の推移 令和5年度

5/1時点

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	48	53	46	52	37	34	270
白河第二小学校	78	87	75	97	85	96	518
白河第三小学校	81	63	87	79	83	92	485
白河第四小学校	31	36	24	32	31	30	184
白河第五小学校	31	35	34	35	25	32	192
小田川小学校	6	12	7	10	14	11	60
五箇小学校	8	10	10	10	6	12	56
関辺小学校	15	12	19	20	22	23	111
みさか小学校	49	61	40	62	54	67	333
表郷小学校	49	52	51	47	38	58	295
小野田小学校	5	12	9	13	10	12	61
釜子小学校	25	23	21	31	17	25	142
大信小学校	23	22	23	25	21	35	149
計	449	478	446	513	443	527	2,856

小学校児童の推移 令和6年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	44	48	53	46	52	37	280
白河第二小学校	71	78	87	75	97	85	493
白河第三小学校	80	81	63	87	79	83	473
白河第四小学校	29	31	36	24	32	31	183
白河第五小学校	22	31	35	34	35	25	182
小田川小学校	9	6	12	7	10	14	58
五箇小学校	6	8	10	10	10	6	50
関辺小学校	12	15	12	19	20	22	100
みさか小学校	58	49	61	40	62	54	324
表郷小学校	41	49	52	51	47	38	278
小野田小学校	8	5	12	9	13	10	57
釜子小学校	21	25	23	21	31	17	138
大信小学校	19	23	22	23	25	21	133
計	420	449	478	446	513	443	2,749

小学校児童の推移 令和7年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	46	44	48	53	46	52	289
白河第二小学校	70	71	78	87	75	97	478
白河第三小学校	70	80	81	63	87	79	460
白河第四小学校	33	29	31	36	24	32	185
白河第五小学校	30	22	31	35	34	35	187
小田川小学校	7	9	6	12	7	10	51
五箇小学校	10	6	8	10	10	10	54
関辺小学校	10	12	15	12	19	20	88
みさか小学校	50	58	49	61	40	62	320
表郷小学校	31	41	49	52	51	47	271
小野田小学校	7	8	5	12	9	13	54
釜子小学校	24	21	25	23	21	31	145
大信小学校	25	19	23	22	23	25	137
計	413	420	449	478	446	513	2,719

小学校児童の推移 令和8年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	46	46	44	48	53	46	283
白河第二小学校	49	70	71	78	87	75	430
白河第三小学校	53	70	80	81	63	87	434
白河第四小学校	24	33	29	31	36	24	177
白河第五小学校	24	30	22	31	35	34	176
小田川小学校	3	7	9	6	12	7	44
五箇小学校	5	10	6	8	10	10	49
関辺小学校	13	10	12	15	12	19	81
みさか小学校	58	50	58	49	61	40	316
表郷小学校	34	31	41	49	52	51	258
小野田小学校	7	7	8	5	12	9	48
釜子小学校	17	24	21	25	23	21	131
大信小学校	17	25	19	23	22	23	129
計	350	413	420	449	478	446	2,556

小学校児童の推移 令和9年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	49	46	46	44	48	53	286
白河第二小学校	63	49	70	71	78	87	418
白河第三小学校	56	53	70	80	81	63	403
白河第四小学校	29	24	33	29	31	36	182
白河第五小学校	21	24	30	22	31	35	163
小田川小学校	9	3	7	9	6	12	46
五箇小学校	8	5	10	6	8	10	47
関辺小学校	13	13	10	12	15	12	75
みさか小学校	44	58	50	58	49	61	320
表郷小学校	25	34	31	41	49	52	232
小野田小学校	3	7	7	8	5	12	42
釜子小学校	17	17	24	21	25	23	127
大信小学校	17	17	25	19	23	22	123
計	354	350	413	420	449	478	2,464

小学校児童の推移 令和10年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	48	49	46	46	44	48	281
白河第二小学校	50	63	49	70	71	78	381
白河第三小学校	59	56	53	70	80	81	399
白河第四小学校	28	29	24	33	29	31	174
白河第五小学校	20	21	24	30	22	31	148
小田川小学校	2	9	3	7	9	6	36
五箇小学校	2	8	5	10	6	8	39
関辺小学校	9	13	13	10	12	15	72
みさか小学校	59	44	58	50	58	49	318
表郷小学校	32	25	34	31	41	49	212
小野田小学校	4	3	7	7	8	5	34
釜子小学校	16	17	17	24	21	25	120
大信小学校	14	17	17	25	19	23	115
計	343	354	350	413	420	449	2,329

小学校児童の推移 令和11年度

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
白河第一小学校	40	48	49	46	46	44	273
白河第二小学校	55	50	63	49	70	71	358
白河第三小学校	47	59	56	53	70	80	365
白河第四小学校	33	28	29	24	33	29	176
白河第五小学校	12	20	21	24	30	22	129
小田川小学校	10	2	9	3	7	9	40
五箇小学校	5	2	8	5	10	6	36
関辺小学校	9	9	13	13	10	12	66
みさか小学校	36	59	44	58	50	58	305
表郷小学校	23	32	25	34	31	41	186
小野田小学校	6	4	3	7	7	8	35
釜子小学校	17	16	17	17	24	21	112
大信小学校	11	14	17	17	25	19	103
計	304	343	354	350	413	420	2,184

中学校生徒の推移 令和5年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	148	148	144	440
白河第二中学校	161	143	149	453
東北中学校	37	42	44	123
白河南中学校	61	36	32	129
五箇中学校			17	17
表郷中学校	47	58	46	151
東中学校	45	41	38	124
大信中学校	37	33	38	108
計	536	501	508	1,545

中学校生徒の推移 令和6年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	142	148	148	438
白河第二中学校	146	161	143	450
東北中学校	47	37	42	126
白河南中学校	50	61	36	147
				0
表郷中学校	58	47	58	163
東中学校	39	45	41	125
大信中学校	38	37	33	108
計	520	536	501	1,557

中学校生徒の推移 令和7年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	129	142	148	419
白河第二中学校	128	146	161	435
東北中学校	51	47	37	135
白河南中学校	49	50	61	160
				0
表郷中学校	38	58	47	143
東中学校	29	39	45	113
大信中学校	21	38	37	96
計	445	520	536	1,501

中学校生徒の推移 令和8年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	142	129	142	413
白河第二中学校	147	128	146	421
東北中学校	43	51	47	141
白河南中学校	57	49	50	156
				0
表郷中学校	48	38	58	144
東中学校	45	29	39	113
大信中学校	24	21	38	83
計	506	445	520	1,471

中学校生徒の推移 令和9年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	139	142	129	410
白河第二中学校	104	147	128	379
東北中学校	34	43	51	128
白河南中学校	57	57	49	163
				0
表郷中学校	51	48	38	137
東中学校	29	45	29	103
大信中学校	23	24	21	68
計	437	506	445	1,388

中学校生徒の推移 令和10年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	111	139	142	392
白河第二中学校	134	104	147	385
東北中学校	53	34	43	130
白河南中学校	64	57	57	178
				0
表郷中学校	51	51	48	150
東中学校	35	29	45	109
大信中学校	22	23	24	69
計	470	437	506	1,413

中学校生徒の推移 令和11年度

学校名	1年	2年	3年	計
白河中央中学校	139	111	139	389
白河第二中学校	115	134	104	353
東北中学校	36	53	34	123
白河南中学校	53	64	57	174
				0
表郷中学校	50	51	51	152
東中学校	30	35	29	94
大信中学校	23	22	23	68
計	446	470	437	1,353

■新入学児童生徒数(見込み)

【小学校】

R05.05.01現在

学校名	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
白河第一小学校	44	46	46	49	48	40
白河第二小学校	71	70	49	63	50	55
白河第三小学校	80	70	53	56	59	47
白河第四小学校	29	33	24	29	28	33
白河第五小学校	22	30	24	21	20	12
小田川小学校	9	7	3	9	2	10
五箇小学校	6	10	5	8	2	5
関辺小学校	12	10	13	13	9	9
みさか小学校	58	50	58	44	59	36
表郷小学校	41	31	34	25	32	23
小野田小学校	8	7	7	3	4	6
釜子小学校	21	24	17	17	16	17
大信小学校	19	25	17	17	14	11
計	420	413	350	354	343	304

【中学校】

R05.05.01現在

学校名	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
白河中央中学校	142	129	142	139	111	139
白河第二中学校	146	128	147	104	134	115
東北中学校	47	51	43	34	53	36
白河南中学校	50	49	57	57	64	53
表郷中学校	58	38	48	51	51	50
東中学校	39	29	45	29	35	30
大信中学校	38	21	24	23	22	23
計	520	445	506	437	470	446

■令和11年度 児童数・学級数(見込み)

【小学校】

R05.05.01現在

学校名	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		児童数	
白河第一小学校	40	2	48	2	49	2	46	2	46	2	44	2	273	12
白河第二小学校	55	2	50	2	63	2	49	2	70	3	71	3	358	14
白河第三小学校	47	2	59	2	56	2	53	2	70	3	80	3	365	14
白河第四小学校	33	1	28	1	29	1	24	1	33	1	29	1	176	6
白河第五小学校	12	1	20	1	21	1	24	1	30	1	22	1	129	6
小田川小学校	10	1	2	1	9	1	3		7	1	9		40	4
五箇小学校	5	1	2		8	1	5		10	1	6		36	3
関辺小学校	9	1	9	1	13	1	13	1	10	1	12	1	66	6
みさか小学校	36	2	59	2	44	2	58	2	50	2	58	2	305	12
表郷小学校	23	1	32	1	25	1	34	2	31	1	41	2	186	8
小野田小学校	6	1	4	1	3	1	7		7	1	8		35	4
釜子小学校	17	1	16	1	17	1	17	1	24	1	21	1	112	6
大信小学校	11	1	14	1	17	1	17	1	25	1	19	1	103	6
計	304	17	343	16	354	17	350	15	413	19	420	17	2,184	101

■令和11年度 生徒数・学級数(見込み)

【中学校】

R05.05.01現在

学校名	1年生		2年生		3年生		生徒数	
白河中央中学校	139	5	111	4	139	5	389	14
白河第二中学校	115	4	134	5	104	4	353	13
東北中学校	36	2	53	2	34	2	123	6
白河南中学校	53	2	64	2	57	2	174	6
表郷中学校	50	2	51	2	51	2	152	6
東中学校	30	1	35	2	29	1	94	4
大信中学校	23	1	22	1	23	1	68	3
計	446	17	470	18	437	17	1,353	52

(6) アンケート結果

1 子どもたちのより良い教育環境について考えるアンケート

【アンケートの概要】

① 目 的

白河市立小中学校の適正規模・適正配置に関して、今後の子どもたちのより良い教育環境づくりを考えるための基礎資料とするため

② 対象者

- 未就学児（4歳児・幼稚園年中組相当）、小学生（小2・小5）、中学生（中2）の各保護者
- 小中学校の常勤の教職員

③ 期 間

令和5年10月16日（月）～10月23日（月） 8日間

④ 実施方法

各園、各学校に配付及び回収を依頼

⑤ アンケート数と回収率

No.	アンケート対象	配付数	回収数	回収率(%)
1	未就学児保護者	413	339	82.1
2	小学2年保護者	475	404	85.1
3	小学5年保護者	446	330	74.0
4	中学2年保護者	502	282	56.2
(保護者 小計)		1,836	1,355	73.8
5	小学校常勤職員	222	205	92.3
6	中学校常勤職員	140	123	87.9
(教職員 小計)		362	328	90.6
【 総 計 】		2,198	1,683	76.6

○小学校に関するアンケート（未就学児保護者、小学生保護者、小学校教職員）
合計 **1,278** 名（回収率 **82.1%**）

○中学校に関するアンケート（中学生保護者、中学校教職員）
合計 **405** 名（回収率 **63.1%**）

⑥ アンケート内容（別項参照）

【アンケートの有効性】

アンケートの結果は、保護者の73.8%、教職員の90.6%が回答しており、アンケート対象者の全体的な意識傾向を把握するうえで有効であるといえる。

2 アンケート調査結果

◇問2 あなたは、小（中）学校の1学級あたりの児童（生徒）数について、どの程度が望ましいと思いますか。

（小学校）

問2 1学級あたりの望ましい人数	10人以下	11～15人	16～20人	21～25人	26～30人	31～35人	36人以上	計
幼稚園全保護者	2	25	71	120	99	21		338
	0.6%	7.4%	21.0%	35.5%	29.3%	6.2%	0.0%	
小学校保護者（2年生）	1	11	105	162	107	9	4	399
	0.3%	2.8%	26.3%	40.6%	26.8%	2.3%	1.0%	
小学校保護者（5年生）	2	11	68	139	93	15	2	330
	0.6%	3.3%	20.6%	42.1%	28.2%	4.5%	0.6%	
小学校全教職員	1	10	87	95	11			204
	0.5%	4.9%	42.6%	46.6%	5.4%	0.0%	0.0%	
総計	6	57	331	516	310	45	6	1271
割合	0.5%	4.5%	26.0%	40.6%	24.4%	3.5%	0.5%	

（中学校）

問2 1学級あたりの望ましい人数	10人以下	11～15人	16～20人	21～25人	26～30人	31～35人	36人以上	計
中学校全保護者		7	42	92	108	28	4	281
	0.0%	2.5%	14.9%	32.7%	38.4%	10.0%	1.4%	
中学校全教職員		2	17	60	36	7	1	123
	0.0%	1.6%	13.8%	48.8%	29.3%	5.7%	0.8%	
総計	0	9	59	152	144	35	5	404
	0.0%	2.2%	14.6%	37.6%	35.6%	8.7%	1.2%	

◇問3 あなたが、問2で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

（小学校）

○未就学児保護者・小学校（2年・5年児童）保護者・小学校教職員								
問2 1学級当たりの 望ましい人数	①きめ細かで 丁寧な指導	②先生の指導 が行き届く	③一人ひとりの 活躍する機会	④切磋琢磨する 機会	⑤コミュニケーション能力を 育む	⑥多様な考え に触れる	⑦その他	計
10人以下	5 41.7%	3 25.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	12
11～15人	45 43.7%	40 38.8%	12 11.7%	1 1.0%	4 3.9%	1 1.0%	0 0.0%	103
16～20人	228 37.5%	210 34.5%	84 13.8%	24 3.9%	37 6.1%	18 3.0%	7 1.2%	608
21～25人	266 29.0%	330 36.0%	106 11.6%	54 5.9%	93 10.1%	63 6.9%	5 0.5%	917
26～30人	64 12.2%	119 22.7%	29 5.5%	96 18.3%	105 20.0%	107 20.4%	5 1.0%	525
31～35人	4 5.0%	12 15.0%	1 1.3%	17 21.3%	25 31.3%	19 23.8%	2 2.5%	80
36人以上	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	3 27.3%	4 36.4%	0 0.0%	11
総計	613	714	233	196	268	212	20	2256
割合	27.2%	31.6%	10.3%	8.7%	11.9%	9.4%	0.9%	

（中学校）

中学校2年生保護者・中学校教職員								
問2 1学級当たりの 望ましい人数	①きめ細かで 丁寧な指導	②先生の指導 が行き届く	③一人ひとりの 活躍する機会	④切磋琢磨する 機会	⑤コミュニケーション能力を 育む	⑥多様な考え に触れる	⑦その他	計
10人以下								0
11～15人	9 60.0%	4 26.7%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	15
16～20人	42 38.2%	44 40.0%	13 11.8%	2 1.8%	7 6.4%	1 0.9%	1 0.9%	110
21～25人	90 33.8%	92 34.6%	38 14.3%	17 6.4%	17 6.4%	10 3.8%	2 0.8%	266
26～30人	50 20.2%	73 29.4%	22 8.9%	25 10.1%	41 16.5%	35 14.1%	2 0.8%	248
31～35人	5 9.4%	6 11.3%	1 1.9%	11 20.8%	14 26.4%	15 28.3%	1 1.9%	53
36人以上	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	4 50.0%	0 0.0%	8
総計	197	219	75	56	81	65	7	700
割合	28.1%	31.3%	10.7%	8.0%	11.6%	9.3%	1.0%	

問3における「その他」の代表的な内容

問2の選択	属性	主な内容
16～20人	小学2年生 保護者	教室の広さに比べて子供たちが多く、机と机の間の通路が狭く感じる。授業参観などでもすべての児童の保護者が教室に入って参観することができない。
21～25人	小教職員	体育のチームづくり、班活動など、児童がグループを作って活動する場面などで、多すぎず少なすぎない、構成を工夫しやすい。

◇問 4 学年 1 学級の状況において児童（生徒）の減少が進んだ場合、あなたは「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

（小学校）

問 4 学級維持の必要最小人数	①1～5人	②6～10人	③11～15人	④16～20人	⑤21～25人	⑥26～30人	⑦31人以上	計
幼稚園全保護者	22	101	96	88	20	4		331
	6.6%	30.5%	29.0%	26.6%	6.0%	1.2%	0.0%	
小学校保護者（2年生）	15	102	148	100	23	3		391
	3.8%	26.1%	37.9%	25.6%	5.9%	0.8%	0.0%	
小学校保護者（5年生）	21	78	116	81	20	4	1	321
	6.5%	24.3%	36.1%	25.2%	6.2%	1.2%	0.3%	
小学校全教職員	17	90	70	23	3			203
	8.4%	44.3%	34.5%	11.3%	1.5%	0.0%	0.0%	
総計	75	371	430	292	66	11	1	1246
割合	6.0%	29.8%	34.5%	23.4%	5.3%	0.9%	0.1%	

（中学校）

問 4 学級維持の必要最小人数	①1～5人	②6～10人	③11～15人	④16～20人	⑤21～25人	⑥26～30人	⑦31人以上	計
中学校全保護者	9	52	88	86	33	6		274
	3.3%	19.0%	32.1%	31.4%	12.0%	2.2%	0.0%	
中学校全教職員	7	23	36	44	9			119
	5.9%	19.3%	30.3%	37.0%	7.6%	0.0%	0.0%	
総計	16	75	124	130	42	6	0	393
割合	4.1%	19.1%	31.6%	33.1%	10.7%	1.5%	0.0%	

◇問5 あなたは、小（中）学校の一つの学年の学級数について、どの程度が望ましいと思いますか。

(小学校)

問5 1学年の望ましい学級数	1学級	2学級	3学級	4学級以上	計
幼稚園全保護者	12	152	144	17	325
	3.7%	46.8%	44.3%	5.2%	
小学校保護者（2年生）	15	200	157	16	388
	3.9%	51.5%	40.5%	4.1%	
小学校保護者（5年生）	14	141	133	26	314
	4.5%	44.9%	42.4%	8.3%	
小学校全教職員	2	102	95	3	202
	1.0%	50.5%	47.0%	1.5%	
総計	43	595	529	62	1229
割合	3.5%	48.4%	43.0%	5.0%	

(中学校)

問5 1学年の望ましい学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級以上	計
中学校全保護者	1	54	92	55	65	7	1	275
	0.4%	19.6%	33.5%	20.0%	23.6%	2.5%	0.4%	
中学校全教職員	1	5	50	49	11	5	1	122
	0.8%	4.1%	41.0%	40.2%	9.0%	4.1%	0.8%	
総計	2	59	142	104	76	12	2	397
割合	0.5%	14.9%	35.8%	26.2%	19.1%	3.0%	0.5%	

◇問6 あなたが、問5で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

（小学校）

未就学児保護者・小学校（2年・5年児童）保護者・小学校教職員								
問5 1学年当たりの 望ましい学級数	①互いの理 解、親密度	②異学年の交 流、学年を超 えた友達	③一人ひとり の活躍する 場、責任感	④クラス替 え、多様な人 間関係	⑤集団で活動 する行事の充 実	⑥多様な考え に触れる	⑦その他	計
1学級	31 45.6%	13 19.1%	16 23.5%	1 1.5%	2 2.9%	1 1.5%	4 5.9%	68
2学級	87 9.0%	106 11.0%	156 16.1%	346 35.8%	87 9.0%	174 18.0%	11 1.1%	967
3学級	29 3.4%	35 4.1%	62 7.2%	393 45.5%	94 10.9%	244 28.3%	6 0.7%	863
4学級以上	1 1.0%	4 4.1%	9 9.2%	33 33.7%	13 13.3%	38 38.8%	0.0%	98
総計	148	158	243	773	196	457	21	1996
割合	7.4%	7.9%	12.2%	38.7%	9.8%	22.9%	1.1%	

（中学校）

中学校2年生保護者・中学校教職員								
問5 1学年当たりの 望ましい学級数	①互いの理 解、親密度	②異学年の交 流、学年を超 えた友達	③一人ひとり の活躍する 場、責任感	④クラス替 え、多様な人 間関係	⑤部活動の充 実	⑥多様な考え に触れる	⑦その他	計
1学級	1 33.3%	1 33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1 33.3%	0.0%	3
2学級	16 16.8%	6 6.3%	25 26.3%	32 33.7%	3 3.2%	13 13.7%	0.0%	95
3学級	12 5.3%	14 6.1%	40 17.5%	91 39.9%	22 9.6%	46 20.2%	3 1.3%	228
4学級	3 1.7%	11 4.8%	17 7.5%	71 31.1%	24 10.5%	47 20.6%	3 1.3%	176
5学級	3 2.4%	1 0.8%	6 4.8%	55 44.0%	14 11.2%	46 36.8%	0.0%	125
6学級	0.0%	0.0%	2 10.0%	9 45.0%	1 5.0%	8 40.0%	0.0%	20
7学級以上	0.0%	0.0%	0.0%	1 33.3%	0.0%	1 33.3%	1 33.3%	3
総計	35	33	90	259	64	162	7	650
割合	5.4%	5.1%	13.8%	39.8%	9.8%	24.9%	1.1%	

問6における「その他」の代表的な内容

問5の選択	属性	主な内容
2学級	未就学児 保護者	2クラス位が多すぎず少なすぎず、先生の目が行き届きやすいのではないかと思います。
3学級	小学5年生 保護者	教師の人数が増えるため3クラス。子どもの見守りや教師の負担軽減の面でも良い。

◇問7 小（中）学校まで徒歩（自転車）通学する場合、通学時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

（小学校）

問7 通学にかかる徒歩時間	15分まで	30分まで	45分まで	60分まで	90分まで	計
幼稚園全保護者	77	213	34	6		330
	23.3%	64.5%	10.3%	1.8%	0.0%	
小学校保護者（2年生）	74	268	44	4		390
	19.0%	68.7%	11.3%	1.0%	0.0%	
小学校保護者（5年生）	68	213	31	8		320
	21.3%	66.6%	9.7%	2.5%	0.0%	
小学校全教職員	17	153	29	3	1	203
	8.4%	75.4%	14.3%	1.5%	0.5%	
総計	236	847	138	21	1	1243
割合	19.0%	68.1%	11.1%	1.7%	0.1%	

（中学校）

問7 通学にかかる自転車運転時間	15分まで	30分まで	45分まで	60分まで	90分まで	計
中学校全保護者	94	170	12	1		277
	33.9%	61.4%	4.3%	0.4%	0.0%	
中学校全教職員	29	82	11			122
	23.8%	67.2%	9.0%	0.0%	0.0%	
総計	123	252	23	1	0	399
割合	30.8%	63.2%	5.8%	0.3%	0.0%	

◇問 8 小（中）学校までスクールバスで通学する場合、通学（乗車）時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

（小学校）

問 8 スクールバス乗車時間	15分まで	30分まで	45分まで	60分まで	90分まで	計
幼稚園全保護者	103	177	40	10	1	331
	31.1%	53.5%	12.1%	3.0%	0.3%	
小学校保護者（2年生）	118	220	42	10	2	392
	30.1%	56.1%	10.7%	2.6%	0.5%	
小学校保護者（5年生）	93	183	34	9		319
	29.2%	57.4%	10.7%	2.8%	0.0%	
小学校全教職員	49	122	26	5	1	203
	24.1%	60.1%	12.8%	2.5%	0.5%	
総計	363	702	142	34	4	1245
割合	29.2%	56.4%	11.4%	2.7%	0.3%	

（中学校）

問 8 スクールバス乗車時間	15分まで	30分まで	45分まで	60分まで	90分まで	計
中学校全保護者	52	180	33	8	1	274
	19.0%	65.7%	12.0%	2.9%	0.4%	
中学校全教職員	20	82	17	3		122
	16.4%	67.2%	13.9%	2.5%	0.0%	
総計	72	262	50	11	1	396
割合	18.2%	66.2%	12.6%	2.8%	0.3%	

◇問9 現在、人口の将来推計データから学校の小規模化が進むことが予測されています。このような状況においても、児童にとってどのような教育環境が重要だと考えますか。

(小学校)

問9 小規模化が進む状況においても重要な教育環境	①刺激しあい、学力・体力を高めあう	②きめ細かな指導を受けること	③社会性、コミュニケーション能力	④たくさんの友達、先生と触れ合うこと	⑤多様な学習形態の授業	⑥ICTを活用した交流や遠隔授業	⑦9年間の一貫した教育	⑧その他	計
幼稚園全保護者	101 16.7%	136 22.5%	174 28.8%	59 9.8%	98 16.2%	14 2.3%	20 3.3%	2 0.3%	604
小学校保護者（2年生）	131 18.6%	163 23.2%	198 28.1%	62 8.8%	105 14.9%	19 2.7%	23 3.3%	3 0.4%	704
小学校保護者（5年生）	92 16.2%	112 19.8%	152 26.8%	57 10.1%	94 16.6%	24 4.2%	34 6.0%	2 0.4%	567
小学校全教職員	69 18.4%	76 20.2%	139 37.0%	24 6.4%	40 10.6%	12 3.2%	14 3.7%	2 0.5%	376
総計	393	487	663	202	337	69	91	9	2251
割合	17.5%	21.6%	29.5%	9.0%	15.0%	3.1%	4.0%	0.4%	

(中学校)

問9 小規模化が進む状況においても重要な教育環境	①刺激しあい、学力・体力を高めあう	②きめ細かな指導を受けること	③社会性、コミュニケーション能力	④たくさんの友達、先生と触れ合うこと	⑤部活動の充実	⑥多様な学習形態の授業	⑦CTを活用した交流や遠隔授業	⑧9年間の一貫した教育	⑨その他	計
中学校全保護者	88 18.0%	97 19.8%	136 27.8%	32 6.5%	24 4.9%	79 16.1%	16 3.3%	16 3.3%	2 0.4%	490
中学校全教職員	46 19.8%	41 17.7%	91 39.2%	17 7.3%	1 0.4%	23 9.9%	8 3.4%	4 1.7%	1 0.4%	232
総計	134	138	227	49	25	102	24	20	3	722
割合	18.6%	19.1%	31.4%	6.8%	3.5%	14.1%	3.3%	2.8%	0.4%	

問9における「その他」の代表的な内容

属性	主な内容
未就学児保護者	人前で自分の意見を発表したり、人と意見を交わすといったディスカッション力やプレゼンテーション能力を身につけることができる環境
小学2年生保護者	自分軸で物事を考える。自分の人生に向き合い、自分の人生に責任を持てるような人へと成長できるような教育が望ましいと思います。

◇問１０ 今後、小規模化が進んだ学校において、子どもたちのより良い教育環境づくりに向けて「学校のあり方の検討を始める」ための目安は、どのような場合が予測されるときが適当と考えますか。

(小学校)

問１０ 学校のあり方の検討を始めるための目安	①全校の人数の減少予測（10-1へ）	②各学年の人数の減少予測（10-2へ）	③複式学級の予測	④複式学級の複数予測	⑤入学者がいない予測	⑥入学者が継続していない予測	⑦その他	計
幼稚園全保護者	60	117	55	24	25	28	1	310
	19.4%	37.7%	17.7%	7.7%	8.1%	9.0%	0.3%	
小学校保護者（２年生）	84	131	58	33	24	31	3	364
	23.1%	36.0%	15.9%	9.1%	6.6%	8.5%	0.8%	
小学校保護者（５年生）	72	85	48	31	23	36	3	298
	24.2%	28.5%	16.1%	10.4%	7.7%	12.1%	1.0%	
小学校全教職員	41	44	41	26	14	21		187
	21.9%	23.5%	21.9%	13.9%	7.5%	11.2%	0.0%	
総計	257	377	202	114	86	116	7	1159
割合	22.2%	32.5%	17.4%	9.8%	7.4%	10.0%	0.6%	

(中学校)

問１０ 学校のあり方の検討を始めるための目安	①全校の人数の減少予測（10-1へ）	②各学年の人数の減少予測（10-2へ）	③複式学級の予測	④入学者がいない予測	⑤入学者が継続していない予測	⑥その他	計
中学校全保護者	75	86	45	21	23		250
	30.0%	34.4%	18.0%	8.4%	9.2%	0.0%	
中学校全教職員	30	49	26	6	6		117
	25.6%	41.9%	22.2%	5.1%	5.1%	0.0%	
総計	105	135	71	27	29	0	367
割合	28.6%	36.8%	19.3%	7.4%	7.9%	0.0%	

◇問 1 0 - 1 一定規模を下回る場合の全校児童（生徒）の人数は、どの程度と考えますか。

（小学校）

/ 問 1 0 - 1 一定規模を下回る場合の全校人数	①10人	②20人	③30人	④40人	⑤50人	⑥60人	⑦70人	⑧その他	計
幼稚園全保護者	7	8	9	3	7	9	9	8	60
	11.7%	13.3%	15.0%	5.0%	11.7%	15.0%	15.0%	13.3%	
小学校保護者（2年生）	4	4	8	2	16	21	16	13	84
	4.8%	4.8%	9.5%	2.4%	19.0%	25.0%	19.0%	15.5%	
小学校保護者（5年生）	3	7	6	4	11	15	16	9	71
	4.2%	9.9%	8.5%	5.6%	15.5%	21.1%	22.5%	12.7%	
小学校全教職員	1	6	5	3	8	11	7		41
	2.4%	14.6%	12.2%	7.3%	19.5%	26.8%	17.1%	0.0%	
総計	15	25	28	12	42	56	48	30	256
割合	5.9%	9.8%	10.9%	4.7%	16.4%	21.9%	18.8%	11.7%	

（中学校）

/ 問 1 0 - 1 一定規模を下回る場合の全校人数	①10人	②20人	③30人	④40人	⑤50人	⑥60人	⑦70人	⑧その他	計
中学校全保護者	7	6	16	5	8	9	21	3	75
	9.3%	8.0%	21.3%	6.7%	10.7%	12.0%	28.0%	4.0%	
中学校全教職員	2	3	6	2	7	7	3		30
	6.7%	10.0%	20.0%	6.7%	23.3%	23.3%	10.0%	0.0%	
総計	9	9	22	7	15	16	24	3	105
割合	8.6%	8.6%	21.0%	6.7%	14.3%	15.2%	22.9%	2.9%	

問10- 1 におけるその他								
記入内容	200人	100人	150人	120人	90人	80人	9人	総計
未就学児・小保護者・小教職員	2	14	3	7	2	1	1	30
中保護者・中教職員		3						3

◇問 1 0 - 2 一定規模を下回る場合の各学年児童（生徒）の人数は、どの程度と考えますか。

（小学校）

/ 問 1 0 - 2 一定規模を下回る場合の学年人数	①2人	②4人	③6人	④8人	⑤10人	⑥その他	計
幼稚園全保護者	1	4	9	11	75	16	116
	0.9%	3.4%	7.8%	9.5%	64.7%	13.8%	
小学校保護者（2年生）	1	5	11	15	81	18	131
	0.8%	3.8%	8.4%	11.5%	61.8%	13.7%	
小学校保護者（5年生）		5	7	15	44	13	84
	0.0%	6.0%	8.3%	17.9%	52.4%	15.5%	
小学校全教職員		4	4	11	23	1	43
	0.0%	9.3%	9.3%	25.6%	53.5%	2.3%	
総計	2	18	31	52	223	48	374
割合	0.5%	4.8%	8.3%	13.9%	59.6%	12.8%	

（中学校）

/ 問 1 0 - 2 一定規模を下回る場合の学年人数	①2人	②4人	③6人	④8人	⑤10人	⑥その他	計
中学校全保護者		3	5	7	60	10	85
	0.0%	3.5%	5.9%	8.2%	70.6%	11.8%	
中学校全教職員	1	3	7	3	26	7	47
	2.1%	6.4%	14.9%	6.4%	55.3%	14.9%	
総計	1	6	12	10	86	17	132
割合	0.8%	4.5%	9.1%	7.6%	65.2%	12.9%	

問10-2におけるその他											
記入内容	14人	15~20人	15人	16~20人	18人	20人	30人	40人	50人	70人	総計
未就学児・小保護者・小教職員	1	1	16	1	1	18	7	1	1	1	48
記入内容	12人	15人	20人	25人	30人	50人	80人	100人	総計		
中保護者・中教職員	1	1	8	1	3	1	1	1	17		

＜問２と問４のクロス集計＞

問２：小(中)学校の１学級当たりの児童(生徒)数について、どの程度が望ましいと思いますか。

問４：「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

未就学児保護者・小学校（２年・５年児童）保護者・小学校教職員								
問2と 問4 のクロス集計（１学級当たりの人数と必要最小人数）	①1～5人	②6～10人	③11～15人	④16～20人	⑤21～25人	⑥26～30人	⑦31人以上	総計
10人以下	4	2						6
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
11～15人	9	36	12					57
	15.8%	63.2%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
16～20人	28	155	117	27				327
	8.6%	47.4%	35.8%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
21～25人	20	132	197	137	19			505
	4.0%	26.1%	39.0%	27.1%	3.8%	0.0%	0.0%	
26～30人	11	38	93	115	32	5	1	295
	3.7%	12.9%	31.5%	39.0%	10.8%	1.7%	0.3%	
31～35人	2	5	9	11	14	4		45
	4.4%	11.1%	20.0%	24.4%	31.1%	8.9%	0.0%	
36人以上	1		1	1	1	2		6
	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	
(空白)		3	1	1				5
	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
総計	75	371	430	292	66	11	1	1246
割合	6.0%	29.8%	34.5%	23.4%	5.3%	0.9%	0.1%	

中学校2年生保護者・中学校教職員							
問2と 問4 のクロス集計（１学級当たりの人数と必要最小人数）	①1～5人	②6～10人	③11～15人	④16～20人	⑤21～25人	⑥26～30人	総計
11～15人	1	5	3				9
	11.1%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
16～20人	3	19	27	9			58
	5.2%	32.8%	46.6%	15.5%	0.0%	0.0%	
21～25人	5	29	52	52	9		147
	3.4%	19.7%	35.4%	35.4%	6.1%	0.0%	
26～30人	6	20	33	55	23	2	139
	4.3%	14.4%	23.7%	39.6%	16.5%	1.4%	
31～35人			9	12	9	4	34
	0.0%	0.0%	26.5%	35.3%	26.5%	11.8%	
36人以上	1	2		1	1		5
	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	
(空白)				1			1
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
総計	16	75	124	130	42	6	393
割合	4.1%	19.1%	31.6%	33.1%	10.7%	1.5%	

＜問２と問１０のクロス集計＞

問２：小(中)学校の１学級当たりの児童(生徒)数について、どの程度が望ましいと思いますか。

問１０：「学校のあり方の検討を始める」ための目安は、どのような場合が予測されるときが適当と考えますか。

未就学児保護者・小学校（２年・５年児童）保護者・小学校教職員								
問２と 問１０のクロス集計（１学級当たりの人数と検討の目安）	①全校の人数の減少（10-1へ）	②各学年の人数の減少（10-2へ）	③複式学級の発生	④複式学級の複数発生	⑤入学者がない	⑥入学者が継続していない	⑦その他	総計
10人以下	1 20.0%			2 40.0%		2 40.0%		5
11～15人	9 17.6%	14 27.5%	9 17.6%	5 9.8%	5 9.8%	8 15.7%	1 2.0%	51
16～20人	76 25.4%	81 27.1%	46 15.4%	35 11.7%	23 7.7%	34 11.4%	4 1.3%	299
21～25人	90 19.2%	166 35.4%	89 19.0%	44 9.4%	37 7.9%	43 9.2%		469
26～30人	66 23.1%	102 35.7%	54 18.9%	27 9.4%	15 5.2%	21 7.3%	1 0.3%	286
31～35人	13 34.2%	10 26.3%	2 5.3%	1 2.6%	6 15.8%	6 15.8%		38
36人以上	2 50.0%					1 25.0%	1 25.0%	4
(空白)		4 57.1%	2 28.6%			1 14.3%		7
総計	257	377	202	114	86	116	7	1159
割合	22.2%	32.5%	17.4%	9.8%	7.4%	10.0%	0.6%	

中学校2年生保護者・中学校教職員						
問２と 問１０のクロス集計（１学級当たりの人数と検討の目安）	①全校の人数の減少（10-1へ）	②各学年の人数の減少（10-2へ）	③複式学級の発生	④入学者がない	⑤入学者が継続していない	総計
11～15人	1 11.1%	5 55.6%		2 22.2%	1 11.1%	9
16～20人	14 25.9%	24 44.4%	8 14.8%	3 5.6%	5 9.3%	54
21～25人	42 30.7%	47 34.3%	28 20.4%	6 4.4%	14 10.2%	137
26～30人	32 24.6%	45 34.6%	30 23.1%	15 11.5%	8 6.2%	130
31～35人	15 46.9%	12 37.5%	4 12.5%	1 3.1%		32
36人以上		2 50.0%	1 25.0%		1 25.0%	4
(空白)	1 100.0%					1
総計	105	135	71	27	29	367
割合	28.6%	36.8%	19.3%	7.4%	7.9%	

＜問４と問９のクロス集計＞

問４：「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

問９：小規模化が進むことが予想される中、どのような教育環境が重要だと考えますか。（２つ選択）

未就学児保護者・小学校（２年・５年児童）保護者・小学校教職員									
問４と問９のクロス集計（必要最小人数と教育環境）	①刺激しあい、学力・体力を高め合う	②きめ細かな指導を受けること	③社会性、コミュニケーション能力	④たくさんの友達、先生と触れ合うこと	⑤多様な学習形態の授業	⑥ICTを活用した交流や遠隔授業	⑦９年間の一貫した教育	⑧その他	計
①１～５人	17 13.3%	36 28.1%	32 25.0%	6 4.7%	20 15.6%	3 2.3%	12 9.4%	2 1.6%	128
②６～１０人	123 18.2%	161 23.9%	185 27.4%	49 7.3%	98 14.5%	27 4.0%	30 4.4%	2 0.3%	675
③１１～１５人	122 15.6%	178 22.8%	240 30.7%	75 9.6%	115 14.7%	24 3.1%	25 3.2%	2 0.3%	781
④１６～２０人	107 20.3%	88 16.7%	164 31.2%	49 9.3%	89 16.9%	10 1.9%	17 3.2%	2 0.4%	526
⑤２１～２５人	21 17.8%	21 17.8%	36 30.5%	18 15.3%	13 11.0%	3 2.5%	6 5.1%		118
⑥２６～３０人	3 16.7%	2 11.1%	5 27.8%	4 22.2%	2 11.1%	2 11.1%			18
⑦３１人以上			1 50.0%				1 50.0%		2
(空白)		1 33.3%		1 33.3%			1 33.3%		3
総計	393	487	663	202	337	69	91	9	2251
割合	17.5%	21.6%	29.5%	9.0%	15.0%	3.1%	4.0%	0.4%	

中学校2年生保護者・中学校教職員										
問4と問9のクロス集計（必要最小人数と教育環境）	①刺激しあい、学力・体力を高め	②きめ細かな指導を受けること	③社会性、コミュニケーション	④たくさんの友達、先生と触れ合	⑤部活動の充実	⑥多様な学習形態の授業	⑦ICTを活用した交流や遠隔授業	⑧9年間の一貫した教育	⑨その他	計
①1～5人	4	7	10		1	2	1	2	1	28
	14.3%	25.0%	35.7%	0.0%	3.6%	7.1%	3.6%	7.1%	3.6%	
②6～10人	24	31	38	8	2	21	10	3		137
	17.5%	22.6%	27.7%	5.8%	1.5%	15.3%	7.3%	2.2%	0.0%	
③11～15人	44	47	71	14	11	36	3	3		229
	19.2%	20.5%	31.0%	6.1%	4.8%	15.7%	1.3%	1.3%	0.0%	
④16～20人	43	41	69	20	8	32	7	8	2	230
	18.7%	17.8%	30.0%	8.7%	3.5%	13.9%	3.0%	3.5%	0.9%	
⑤21～25人	16	10	30	4	1	10	2	2		75
	21.3%	13.3%	40.0%	5.3%	1.3%	13.3%	2.7%	2.7%	0.0%	
⑥26～30人	1	1	3	3		1	1	1		11
	9.1%	9.1%	27.3%	27.3%	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	
(空白)	2	1	6		2			1		12
	16.7%	8.3%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	
総計	134	138	227	49	25	102	24	20	3	722
割合	18.6%	19.1%	31.4%	6.8%	3.5%	14.1%	3.3%	2.8%	0.4%	

＜問４と問１０のクロス集計＞

問４：「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

問１０：「学校のあり方の検討を始める」ための目安は、どのような場合が予測されるときが適当と考えますか。

未就学児保護者・小学校（２年・５年児童）保護者・小学校教職員								
問４と問１０のクロス集計 （必要最小人数と検討の目安）	①全校の人数の減少 （１０-１へ）	②各学年の人数の減少 （１０-２へ）	③複式学級の発生	④複式学級の複数発生	⑤入学者がいない	⑥入学者が継続していない	⑦その他	総計
①１～５人	9 13.2%	9 13.2%	11 16.2%	9 13.2%	11 16.2%	17 25.0%	2 2.9%	68
②６～１０人	70 20.6%	90 26.5%	61 17.9%	41 12.1%	41 12.1%	34 10.0%	3 0.9%	340
③１１～１５人	88 22.2%	149 37.5%	77 19.4%	42 10.6%	11 2.8%	30 7.6%	0 0.0%	397
④１６～２０人	67 26.2%	91 35.5%	40 15.6%	16 6.3%	15 5.9%	25 9.8%	2 0.8%	256
⑤２１～２５人	15 25.0%	23 38.3%	8 13.3%	2 3.3%	4 6.7%	8 13.3%	0 0.0%	60
⑥２６～３０人	4 50.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	8
⑦３１人以上	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1
（空白）	4 13.8%	13 44.8%	4 13.8%	3 10.3%	3 10.3%	2 6.9%	0 0.0%	29
総計	257	377	202	114	86	116	7	1159
割合	22.2%	32.5%	17.4%	9.8%	7.4%	10.0%	0.6%	

中学校２年生保護者・中学校教職員						
問４と問１０のクロス集計 （必要最小人数と検討の目安）	①全校の人数の減少 （１０-１へ）	②各学年の人数の減少 （１０-２へ）	③複式学級の発生	④入学者がいない	⑤入学者が継続していない	総計
①１～５人	2 13.3%	3 20.0%	4 26.7%	2 13.3%	4 26.7%	15
②６～１０人	20 29.0%	22 31.9%	15 21.7%	3 4.3%	9 13.0%	69
③１１～１５人	33 29.2%	40 35.4%	26 23.0%	9 8.0%	5 4.4%	113
④１６～２０人	39 32.5%	49 40.8%	17 14.2%	10 8.3%	5 4.2%	120
⑤２１～２５人	9 24.3%	14 37.8%	8 21.6%	3 8.1%	3 8.1%	37
⑥２６～３０人	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	5
（空白）	1 12.5%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	8
総計	105	135	71	27	29	367
割合	28.6%	36.8%	19.3%	7.4%	7.9%	

集計番号：

対 象 者 ： 小学生保護者
提出期日 ： 10月30日

■子どもたちのより良い教育環境について考えるアンケート

《記入上の注意》

- 1 氏名を記入する必要はありません。
- 2 回答は、特に指定がなければ1問につき最もあてはまる番号1つだけに「○」を付けてください。() 内に指示がある場合は、指示に従ってください。
- 3 ご記入の際は、ボールペン等容易に消えないものをご使用願います。

問1 あなたのお子さんが現在通っている小学校をお答えください。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ① 白河第一小学校 | ② 白河第二小学校 | ③ 白河第三小学校 |
| ④ 白河第四小学校 | ⑤ 白河第五小学校 | ⑥ 小田川小学校 |
| ⑦ 五箇小学校 | ⑧ 関辺小学校 | ⑨ みさか小学校 |
| ⑩ 表郷小学校 | ⑪ 小野田小学校 | ⑫ 釜子小学校 |
| ⑬ 大信小学校 | | |

問2 あなたは、小学校の1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいと思いますか。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ① 10人以下 | ② 11～15人 | ③ 16～20人 | ④ 21～25人 |
| ⑤ 26～30人 | ⑥ 31～35人 | ⑦ 36人以上 | |

※国、県の学級編制の基準等について

本市小中学校の学級編制は、福島県の基準にあわせて小学校1、2年生と中学校1年生が30人、それ以外の学年では33人としています。

なお、国の標準（令和5年度）は、小学校1～4年生が35人、それ以外の学年では40人となっています。

問3 あなたが、問2で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

- ① 学習面で一人ひとりの個に応じたきめ細かで丁寧な指導が期待できる。
- ② 学校活動全般において先生の指導が行き届きやすい。
- ③ 学級で一人ひとりが活躍する機会が多くある。
- ④ 子ども同士が刺激し合い、切磋琢磨する機会が増える。
- ⑤ 友達同士の関わりが多くなり、コミュニケーション能力を育みやすい。
- ⑥ たくさんの友達と関わることで、多様な考えに触れることができる。
- ⑦ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

問4 学年1学級の状況において児童の減少が進んだ場合、あなたは「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

- ① 1～5人 ② 6～10人 ③ 11～15人 ④ 16～20人
⑤ 21～25人 ⑥ 26～30人 ⑦ 31人以上

問5 あなたは、小学校の一つの学年の学級数について、どの程度が望ましいと思いますか。

- ① 1学級 ② 2学級 ③ 3学級 ④ 4学級以上

※標準的な学級数について

国の法律等（学校教育法施行規則）では、学校規模の標準を小中学校とも12学級以上18学級以下と定めています。これにより、小学校では1学年あたり2～3学級、中学校では1学年あたり4～6学級が標準的な学級数とされています。

問6 あなたが、問5で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

- ① 同じ友達とずっと過ごせるので、お互いに理解し合うことができ、親密になれる。
② 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友達ができる。
③ 学校行事等で一人ひとりが活躍する場があり、責任感が育つ。
④ クラス替えで環境を変えることで、多様な人間関係を築くことができる。
⑤ 運動会などの集団で活動する行事が充実する。
⑥ たくさんの友達や先生と関わることで、多様な考えに触れることができる。
⑦ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

問7 小学校まで徒歩通学する場合、通学時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

- ① 15分まで ② 30分まで ③ 45分まで ④ 60分まで ⑤ 90分まで

問8 小学校までスクールバスで通学する場合、通学（乗車）時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

- ① 15分まで ② 30分まで ③ 45分まで ④ 60分まで ⑤ 90分まで

《 問9へつづく 》

問9 現在、人口の将来推計データから学校の小規模化が進むことが予測されています。

このような状況においても、児童にとってどのような教育環境が重要だと考えますか。(2つ以内に○)

- ① 子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことができる環境
- ② 一人ひとりが行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境
- ③ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につけることができる環境
- ④ たくさんの友達、先生と触れ合うことができる環境
- ⑤ 多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境
- ⑥ ICTを活用し他の学校との交流や遠隔授業ができる環境
- ⑦ 義務教育の9年間を一貫して教育を受けられる環境

(小中一貫校・義務教育学校【注1】)

- ⑧ その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

【注1】

小中一貫校 … 既にある小学校・中学校が連携して9年間の一貫教育を行う学校

義務教育学校 … 小学校課程から中学校課程までの義務教育の9年間を一つの学校として一貫して行う新しい学校

《 問10へつづく 》

問 1 0 今後、小規模化が進んだ学校において、子どもたちのより良い教育環境づくりに向けて「学校のあり方の検討を始める【注 2】」ための目安は、どのような場合が予測されるときが適切と考えますか。

- ① 全校児童の人数が一定の規模を下回る場合 → **問 1 0 - 1** へ
- ② 各学年児童の人数が一定の規模を下回る場合 → **問 1 0 - 2** へ
- ③ 複式学級【注 3】が発生する場合
- ④ 複式学級が複数発生する場合
- ⑤ 入学者がいない場合
- ⑥ 入学者がいない状況が数年つづく場合
- ⑦ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

【注 2】

「学校のあり方の検討を始める」とは

今後も少子化が進むことが予測されるなか、子どもたちにとってより良い教育環境となるよう将来を見通した学校運営を行うため、保護者や地域の方と学校のあり方について検討を行うこと。

【注 3】

「複式学級」とは

2つの学年を合わせても16人以下（1年生を含む場合は8人以下）となる場合に編制する学級

問 1 0 - 1 一定規模を下回る場合の全校児童の人数は、どの程度と考えますか。

- ① 10人 ② 20人 ③ 30人 ④ 40人 ⑤ 50人
- ⑥ 60人 ⑦ 70人 ⑧ その他（ 人）

問 1 0 - 2 一定規模を下回る場合の各学年の人数は、どの程度と考えますか。

- ① 2人 ② 4人 ③ 6人 ④ 8人
- ⑤ 10人 ⑥ その他（ 人）

以上でアンケートは終了です。

最後までご回答いただきありがとうございました。

集計番号：

対 象 者 ： 中学生保護者

提出期日 ： 10月30日

■子どもたちのより良い教育環境について考えるアンケート

《記入上の注意》

- 1 氏名を記入する必要はありません。
- 2 回答は、特に指定がなければ1問につき最もあてはまる番号1つだけに「○」を付けてください。（ ）内に指示がある場合は、指示に従ってください。
- 3 ご記入の際は、ボールペン等容易に消えないものをご使用願います。

問1 あなたのお子さんが現在通っている中学校をお答えください。

- ① 白河中央中学校 ② 白河第二中学校 ③ 東北中学校
④ 白河南中学校 ⑤ 五箇中学校 ⑥ 表郷中学校
⑦ 東中学校 ⑧ 大信中学校

問2 あなたは、中学校の1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいと思いますか。

- ① 10人以下 ② 11～15人 ③ 16～20人 ④ 21～25人
⑤ 26～30人 ⑥ 31～35人 ⑦ 36人以上

※国、県の学級編制の基準等について

本市小中学校の学級編制は、福島県の基準にあわせて小学校1、2年生と中学校1年生が30人、それ以外の学年では33人としています。

なお、国の標準（令和5年度）は、小学校1～4年生が35人、それ以外の学年では40人となっています。

問3 あなたが、問2で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

- ① 学習面で一人ひとりの個に応じたきめ細かで丁寧な指導が期待できる。
② 学校活動全般において先生の指導が行き届きやすい
③ 学級で一人ひとりが活躍する機会が多くある。
④ 子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える。
⑤ 友達同士の関わりが多くなり、コミュニケーション能力を育みやすい。
⑥ たくさんの友達と関わることで、多様な考えに触れることができる。
⑦ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

問4 学年1学級の状況において生徒の減少が進んだ場合、あなたは「学級維持に必要な最小の人数」をどの程度と考えますか。

- ① 1～5人 ② 6～10人 ③ 11～15人 ④ 16～20人
⑤ 21～25人 ⑥ 26～30人 ⑦ 31人以上

問5 あなたは、中学校の一つの学年の学級数について、どの程度が望ましいと思いますか。

- ① 1学級 ② 2学級 ③ 3学級 ④ 4学級
⑤ 5学級 ⑥ 6学級 ⑦ 7学級以上

※標準的な学級数について

国の法律等（学校教育法施行規則）では、学校規模の標準を小中学校とも12学級以上18学級以下と定めています。これにより、小学校では1学年あたり2～3学級、中学校では1学年あたり4～6学級が標準的な学級数とされています。

問6 あなたが、問5で回答した理由に近いものはどれですか。（2つ以内に○）

- ① 同じ友達とずっと過ごせるので、お互いに理解し合うことができ、親密になれる。
② 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友達ができる。
③ 学校行事等で一人ひとりが活躍する場があり、責任感が育つ。
④ クラス替えで環境を変えることで、多様な人間関係を築くことができる。
⑤ 部活動等の種類・内容が充実する。
⑥ たくさんの友達や先生と関わることで、多様な考えに触れることができる。
⑦ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

問7 中学校まで自転車で通学する場合、通学時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

- ① 15分まで ② 30分まで ③ 45分まで ④ 60分まで ⑤ 90分まで

問8 中学校までスクールバスで通学する場合、通学（乗車）時間はどの程度までが通学可能な範囲と考えますか。

- ① 15分まで ② 30分まで ③ 45分まで ④ 60分まで ⑤ 90分まで

《 問9へつづく 》

問 9 現在、人口の将来推計データから学校の小規模化が進むことが予測されています。
このような状況においても、生徒にとってどのような教育環境が重要だと考えますか。(2つ以内に○)

- ① 子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことができる環境
- ② 一人ひとりが行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境
- ③ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につけることができる環境
- ④ たくさんの友達、先生と触れ合うことができる環境
- ⑤ 部活動が充実している環境
- ⑥ 多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境
- ⑦ I C Tを活用し他の学校との交流や遠隔授業ができる環境
- ⑧ 義務教育の9年間を一貫して教育を受けられる環境
(小中一貫校・義務教育学校【注1】)
- ⑨ その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

【注1】

小中一貫校 … 既にある小学校・中学校が連携して9年間の一貫教育を行う学校
義務教育学校 … 小学校課程から中学校課程までの義務教育の9年間を一つの学校として一貫して行う新しい学校

《 問 1 0 へつづく 》

問 1 0 今後、小規模化が進んだ学校において、子どもたちのより良い教育環境づくりに向けて「学校のあり方の検討を始める【注 2】」ための目安は、どのような場合が予測されるときが適切と考えますか。

- ① 全校生徒の人数が一定の規模を下回る場合 → **問 1 0 - 1** へ
- ② 各学年生徒の人数が一定の規模を下回る場合 → **問 1 0 - 2** へ
- ③ 複式学級【注 3】が発生する場合
- ④ 入学者がいない場合
- ⑤ 入学者がいない状況が数年つづく場合
- ⑥ その他（上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。）

【注 2】

「学校のあり方の検討を始める」とは

今後も少子化が進むことが予測されるなか、子どもたちにとってより良い教育環境となるよう将来を見通した学校運営を行うため、保護者や地域の方と学校のあり方について検討を行うこと。

【注 3】

「複式学級」とは

2つの学年を合わせても8人以下となる場合に編制する学級

問 1 0 - 1 一定規模を下回る場合の全校生徒の人数は、どの程度と考えますか。

- ① 10 人 ② 20 人 ③ 30 人 ④ 40 人 ⑤ 50 人
- ⑥ 60 人 ⑦ 70 人 ⑧ その他（ 人）

問 1 0 - 2 一定規模を下回る場合の各学年の人数は、どの程度と考えますか。

- ① 2 人 ② 4 人 ③ 6 人 ④ 8 人
- ⑤ 10 人 ⑥ その他（ 人）

以上でアンケートは終了です。

最後までご回答いただきありがとうございました。